

令和4年度 第2回放送番組審議会 議事録

令和5年3月29日(水) 15時～ UCV 本社で開会

【出席委員(五十音順、敬称略)】

岡崎謙一(岡崎酒造株式会社 代表取締役社長)
西田不折(上田市サントミュージゼ館長、元上田市教育委員長)
花岡敏道(元東御市教育次長)
堀内和子(株式会社エフエムとうみ 代表取締役社長)
宮下俊哉(真田山種月院長谷寺住職、NPO法人ほこほこネクト理事長)

【UCV 出席者】

代表取締役社長 母袋卓郎
取締役地域情報部部长 中村和己
地域情報部課長 清水望和
地域情報部課長 春原裕佑
地域情報部課長補佐 嶋崎美江

【委員からの主な質問・意見】

(1)令和4年度下期の報告

●UCVレポートについて

- ・地域で定着してきている。地域情報の中心的な番組だと感じる。
朝起きて新聞は信濃毎日新聞、テレビはUCVのニュースが習慣になっている。
この状態でいいのではないかと思う。

●地域情報部の取り組み全体について

- ・新しい取り組みをしていて積極性を感じる。SNSやホームページへの誘導など。
加入していない人にも視聴を促す姿勢は今後も継続して欲しい。
- ・エリア内の不特定多数に向けての具体的方策は？

(UCVからの回答)悩んでいる。まずはSTBを通して新たなサービスができないか模索中。
より多くの方にコンテンツを見てもらうために、まずはホームページのアクセスを上げる努力をしていく。

- ・新規顧客をどのように獲得するのかはどのような番組を作るのか、ということとセットだと考える。加入に繋げる、という点でどう考えているか。

(UCVからの回答)数多く発信し続けること。今まで以上に子どもの活動を取り上げ、現役を退いた人への訴求を講座という形でお送りしている。
「UCVならこの先生の話が聞ける」がキャッチになるかもしれない。

- ・視聴者にアンケートを実施してはどうか。取材先での一つ一つの声が今後の番組に繋がるのでは。

(UCVからの回答)アンケートは何を聞くか明確な意図が無いと意味がない。
視聴率を上げるために番組をつくるのではなく、一人の為の番組でも作り続けるなかで活路を見出したい。

- ・どういう形であれ外部からの意見をもらうのは良いこと。客観的な感想に目を通してみてはどうか。
- ・加入率を増やすのは臨むべき課題。家を建てる、子どもが保育園・幼稚園にあがるときに集中的に営業してはどうか。
- ・取材は半分営業。宣伝できるタイミングだと思う。

●放送番組全般について

- ・人を引きつけるのか遠ざけるのかわからないが、独特な雰囲気。口角が上がっていない。イメージが固い。明るい楽しい柔らかいイメージで親しみのある画を。視覚で訴える時代。良さを消さずにブラッシュアップしてほしい。

●部内で行う講座について(※講座は各自の得意分野におけるスキルや工夫を部内で共有するもの)

- ・社内研修のような、学び合う場をつくるのが良いと感じた。
- ・社内研修は大切なこと。できている例を聞いたことがない。かつて市役所内でも勉強会を開いたことがあったが定着しなかった。続ければ先行きが明るいのでは。
- ・それぞれに得意とすることをうまく誘導すると個性が表に出てくる。
- ・教える側になると学びなおしをするのが良い。

●県内ケーブルテレビ局との連携について

- ・県内ケーブルテレビとの連携、というのは他局と協定を結んでいるのか。

(UCVからの回答)協議会という組織がある。互いにできる範囲で協力して事業を行う。

- ・地元も大事だが、少し広い範囲で色々な特性、属性を紹介しあうのも面白い。
関心を持ってもらえれば距離感がぐっと縮まり、遠くからでも来てもらえる。

(2)令和5年度上期の予定

●3DCGについて

- ・地元にも素晴らしい文化財がある。サントミュージゼとコラボレーションできそうな案件があるので、今後相談をしたい。

●企画番組について

- ・自動車教習所を舞台とした番組の制作について。ソフトだけでなく、ハード面も扱ってみてはどうか。技術の進歩が社会復帰の手助けとなっている事例を取り上げたら良い。
- ・長小の150周年も考えていることがある。ぜひ取材してほしい。

(3)番組視聴

番組1 2022年10月 放送 第64回真田地域一周駅伝(抜粋)

- ・映像は綺麗だった。
- ・九度山町がなぜ来ているかは、もう少し丁寧に説明しても良いと思った。
- ・記録として映像が残っていくのはありがたい。
- ・UCVはこれをやり続けてほしい。一旦無くなったとしても、いつか再び始めるときのきっかけになるかもしれない。
- ・田舎のコミュニケートが変わってきている。今の記録は20年30年後のアーカイブになる。
- ・小さな場所での現象が社会全体の縮図になっている。取り上げるのはUCVの宿命。社会の矛盾をどのようにとらえ、表現するかが課題。制作番組は視聴者が考えるきっかけになれば良い。

番組2 UCVレポートから「無線技術を使った放送」

2023年1月 6日放送 上田市鹿教湯温泉 こたつバル

2023年2月16日放送 歴史的風致維持向上計画

- ・この分野の技術の進歩はすごい。
- ・携帯回線を束ねることで、祭り等で使用する場合に弱い。導入当初より最近は安定してる。
- ・利用者の声を入れるべきだったと思う。
- ・ライブ感があった。他の民放局と遜色ない。
- ・画面にLIVEと入ったのがよかった。雰囲気があった。
- ・無線技術で有線放送…面白いと思った。

以上